

平成 29 年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業



平成 29 年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、日本武道協議会）は 6 月 2・3 日、東京・深沢の世田谷区立東深沢中学校（長谷川智也校長）で、研究者 3 名、研究協力者 3 名が集まって行われた。中学校空手道授業の実践発表や 3 日に開催された同校の体育祭で全校生徒による形演武を視察するなどした。本事業は平成 27 年度より中学校の学園祭や体育祭における空手道演武を視察する形式で行われており、今年度で 3 回目の実施となった。

■ 1 日目（6 月 2 日）

開講式に続いて、竹見国雄（東深沢中学校外部指導者）、喜納真由美（三輪田学園中学校・高等学校非常勤講師）、高橋優子（練馬区立開進第三中学校外部指導者）、岸田耕治（東深沢スポーツ・文化クラブ空手道指導者）の 4 氏がそれぞれ中学校空手道授業の実践例を発表した。

●竹見国雄研究協力者

本研究事業の会場となっている世田谷区立東深沢中学校の空手道授業で外部指導者として指導している。授業で扱うのは基本動作および基本形 1 で、特に形の稽古における重心動揺を制御することで空間認知と重心の位置確認が養われるとした。団体形の練習でみられる長所として、生徒の教え合いや生徒同士が形を合わせるために五感で気配を読み取ろうとしていたことを挙げた。

●喜納真由美研究協力者

普連土学園と三輪田学園で非常勤講師として指導。普連土学園は年間 10 時間で、1 年生は基本形 1、2 年生は平安二段を行っている。2 学年に指導を行っているが、思春期の影響か 2 年生より 1 年生の

方が上手だという。授業参観では保護者間で空手道が安全な武道であるとの認識が広がっており、空手道でよかったという意見が多くある。

三輪田学園は本年度から指導しており、通年で行う予定である。1 学期は基本形（団体）、2 学期は平安二段（団体）、3 学期は平安二段（個人）というカリキュラムを想定している。毎時間テーマを設け、その時間の学習目的を意識させている。よく理解されていない武道用語が日常生活や重要な場面で活用できることを意図している。年間のテーマは武道の特性「察する」とした。形の意味や空間認識、間、呼吸などを授業を通じて、生徒に自分で理解していく面白さを感じ取らせるのが目標である。

●高橋優子研究協力者

平成 23 年より練馬区内の中学校で外部指導者として授業で指導を行っている。座学 3 時間、実技 6 時間の計 9 時間で授業を展開し、1 年目は基本形（団体）、2 年目は平安初段（団体）と基本一本組手、3 年目は平安二段（団体）という内容である。また、男女共習も試みたが、互いに意識するところがあり、1 年目のみ実施して翌年からは別習に戻した。

●岸田耕治氏

東深沢スポーツ・文化クラブで空手道を指導しており、東深沢中学校の大塚幹太教諭より保健体育科で空手道の授業を行いたいとの要望を受け、日下修次研究者に続いて 1 年生の男子から始めた。初年度に好評を得たため、翌年度より全校生徒で行うようになった。また、日本体育大学との連携を図り、同大の竹見研究協力者に協力を仰ぐようになった。また、「教師体験」として同校に来ていた佐藤穂花氏（日本体育大学学生）も協力。男性の武道という印象の強い空手道であったが、佐藤氏のおかげで女子への受けもよくなった。

■ 2 日目（6 月 3 日）

午前は中学校保健体育科における武道授業への連盟の取組や次年度以降の本事業の進め方などについて研究協議がなされた。午後は東深沢中学校体育祭のプログラムである空手道演武を視察した。

空手道演武は全学年の男子が行った。まず全員で基本動作のうち、その場突き、連続突き、連続蹴りを 10 本ずつ行い、続いて、約束組手 2、4、8 を披

露した。次に学年別の形演武となり、1 年生が基本形 1、2 年生が基本形 2、基本形 3、3 年生が平安二段、平安四段を披露。最後に全員で基本形 1 を披露した。

保護者や女子生徒が肅然と見守る中、真剣な面持ちで演武を披露する男子生徒の「エイッ！」という気合が青空に響き渡り、演武が終わると盛大な拍手が送られた。演武視察後は生徒の演武や本事業の感想などについて参加者全員が述べた。

●佐藤穂花氏

今後、スポーツ文化クラブと学校の関わり合いがとても大切であると感じた。今回の取組で大学と地域が連携するということができた。これを全国に発信できたらいいと思った。

●岸田耕治氏

よくできており完成度が高かったと思う。1 年生は入ったばかりなのによくあそこまでできたと思った。また、太鼓は武道に合っており、運動会に必要だということも思った。

●竹見国雄研究協力者

本学が協力させていただいたのも、地域と協力するべきだと思ったからで、学生が学ぶ場を与えてくださったことはありがたい。条件が整えば大学の授業に入ってきていただくこともいいと思う。

●石川周亭研究者

形のときに 2 年生は 1 年生と違って力強さがあると思った。ただ、2 回やるなら前と後ろの生徒を入れ替えてもよかったと思う。空手をやるぞという雰囲気の子供たちが作っているからなのか、会場全体がいい雰囲気になっていた。

●小山正辰研究者

教員を経験した者としていえば、200 人の生徒を動かすのは大変である。時間帯と学年と隊形といういろいろな要素が混じっている。今回以外にも発表の機会があればいいかなと感じた。

●日下修次研究者

安全で生徒の達成感もある、組体操に負けない派手さ、ダイナミックさを求めるのであれば、倒して突きや全員で移動基本があってもいいと思う。今後は、体育祭用指導マニュアルなども提案していけたらと思った。